

会 議 名	第8回 まちづくりの勉強会
日 時	平成31年3月27日 午後7時30分～午後9時08分
内 容	<p>[テーマ] 高山の未来のための都市づくり ～30年後(2050年)の高山、何を目指して生きるんや～</p> <p>[参加者] 市 民 10名 事務局 2名 計12名 (10代：0名 20代：1名 30代：2名 40代：5名 50代：2名 60代：2名 70代：0名)</p> <p>[勉強会の流れ] ① はじめに(10分) 進行：事務局 ② グループ討議(60分) 前回のグループ討議での「ゆっくりとしたときが流れる」ということの議論も踏まえつつ、若者が住みたくなるようなまち、子育てしたくなるようなまちとは、また、若者はそれを受け入れられるのか、受け入れたいと思っているのか、受け入れられるとしたらどのような工夫をすれば良いかということテーマに、各グループで討議 ③ グループ別発表、意見交換(23分) ④ おわりに(5分)</p> <p>[グループ別発表] 【グループ1】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・若者は、落ち着いたまち、溜り場、やりたいことが実現できる場所が欲しいだろう。</li> <li>・公園、緑地、大型店舗、映画館、美術館(=ゆっくりできる溜り場)があり、暮らしやすいと感じることができるまちが良い。</li> <li>・働く場所、空き家を改装した安い住まい、かつ、その空き家を斡旋するコーディネーターがいると良い。(お金がかからないまち)</li> <li>・子どもからお年寄りまで幅広い年齢層が住み、安心安全なまちが良い。</li> <li>・田舎の良さを伝える、伝統文化の継承、食べ物の美味しさを伝える、多様性を大切にする教育が大事。</li> <li>・交流しやすい仕組みづくり → 婚活支援につながる</li> <li>・移住者の多い、国際的なまちが良い → 新しい風が常に吹いている</li> </ul> <p>【グループ2】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・若者とは? 20代前半、高校や大学を卒業して就職する子(高山に戻ってくる、他所から高山に来る)で想定</li> <li>・マイナス面 高山は他の地域に比べて賃金が低い、移動の手段が車に限られる 消防や地域の行事に縛られる</li> <li>・プラス面 農業など副収入を得て生活できる 都会に比べて通勤時間が短いため自分の時間が使え、趣味に没頭できる 外国人観光客が多いため、海外との交流ができる 適度な自然、田舎感、のどかなところ、静かなところ</li> <li>・若者が暮らすために必要なもの 自分の居場所、自分らしく一息つけるところ、落ち着けるところ スポーツ施設、映画館</li> <li>・若者といま高山に住んでいる人たちが交流することが大事 壮年の世代や高齢の世代とつながる場所を提供し、若者の考え方、見方を知る</li> </ul>

[全体ディスカッションでの主な意見]

- ・若い人が自分の生活を大事にするなら、子育てしやすいというのが中核になる。
- ・副業をする若い人が増えていることはとても興味深い。
- ・地域の協同組合の話など、年配の方々と話し合っても、それが若者に受け入れられるのか、持続できるのかがわからない。若者の言葉を聞きながら物事を進めないとうまくいかないだろうと思う。

[アンケートより抜粋]

- ・「若者」をひとまとめにするのではなく、ターゲットを絞った方が良いのでは。今回は年齢というカテゴリだったが、Uターン、Iターン、就農に興味がある方、田舎暮らしにあこがれる方 など。
- ・壮年と若者がつながる場を実際に作り出せるとおもしろいと思う。

[まとめ・次回について]

- ・若者が住みたいまちとは、具体的なイメージでは何を指しているのか、どういうものなのか、を考える。
- ・第9回は、平成31年4月24日（水）19：30～21：30 市役所にて。
- ・今後、「ひだ！高校生会議」の報告書や空家活用コンテストの作品などを、話合いの題材にする予定。